学校だより

Vol. 116

2024年5月発行
(2023.10～2024.3)



Contents

02 専攻科修了式・本科卒業式告辞
04 祝　卒業・修了
14 卒業生・修了生の進路
16 学生会
17 小論文コンクール
18 学生の活躍
20 TOPICS
29 ものづくり工房(現 磐陽テックガレージ)開設記念プレオープンコンテストを実施
30 磐陽祭2023を開催
31 退職者挨拶

独立行政法人国立高等専門学校機構
福島工業高等専門学校
National Institute of Technology(KOSEN),Fukushima College



第19回専攻科修了証書授与式
第58回卒業証書授与式　告辞



福島工業高等専門学校
校長　田口重憲

修了生・卒業生の皆さん、修了・卒業おめでとうございます。

春を感じさせる穏やかな日も多くなり、学生の皆さんが新たな道を歩み始める時が参りました。新型コロナウイルスの感染も昨年５月に５類に移行し、ほぼ、コロナ前の形で、本日、保護者の皆様もお迎えして、卒業式が挙行できることを、お集りの皆様と共に喜びたいと思います。

この度、本校を巣立つのは、専攻科の、産業技術システム工学専攻21名、及びビジネスコミュニケーション学専攻６名の専攻科修了生計27名、並びに、本科生として、機械システム工学科43名、電気・電子システム工学科39名、化学･バイオ工学科37名、都市システム工学科40名、ビジネスコミュニケーション学科39名の計198名です。

修了生・卒業生の保護者・御家族の皆様には、本日御卒業のお子様の成長を温かく見守り、また、導き、このように立派に育て上げられましたことに、敬意を表しますとともに、心からお祝いを申し上げます。

さて、修了生・卒業生の皆さん、皆さんがこの度卒業・修了を迎えることができるのは、これまで、日々、勉学に励み、努力を続けてきた結果でもあり、数年に渡るコロナ禍の中で遠隔授業、大会・イベントの制限があったにも関わらず、これをやり遂げたことに、本校の校長として、誇りに思っています。

学生の皆さん、皆さんのここまでの成長は、ご家族の愛情と支援、教職員・部活動の指導者などの熱心な指導に支えられてのものであり、皆さんを育み共に歩み、時には共に困難を乗り越えてくれたすべての方に、感謝の気持ち忘れないでください。

さて、皆さんが、これから歩んでいく社会は、どのように変化していくかは非常に不透明です。これからの社会を住みやすい、豊かな社会にして行くのは、皆さん自身です。

私自身が社会人になったころは、バブルの最中であり、「JAPAN　AS　No１」という、書物がもてはやされていました。日本全土の地価がアメリカ全土の地価を超えるような時代でした。しかし､今どうでしょうか？当時は、日本はアメリカに次ぐ、世界第二の経済大国でありましたが、現在では第４位となっています。家電製品は、当時、日本製が世界でもてはやされていましたが、今や、日本の国内でも、日本のメーカーが自ら生産している製品はわずかになってしまいました。また、なくなってしまったメーカー、家電等部門を海外に売却したメーカーも数多くあります。

現代社会は「先が見えない社会」です。少子高齢化により「社会の構造」が変わりつつありますし、AIなどの情報処理・通信関連、カーボンニュートラルなど











のエネルギー関連、ロボット・ドローン関連などに係る技術をはじめ、技術革新により、これからの社会・生活が大きく変わろうとしています。

これからの社会を築くのは皆さんです。社会で自らの人生を築き上げるのも皆さん自身です。「人は社会を変えることができるし、意志と努力によって、人生を作り上げることができます。」AI（人工知能）では持ち得ない、自らの「意志」を持って、これからの道を歩んで頂きたいと思います。

修了生・卒業生の皆さん、皆さんの旅立ちにあたって、皆さんに心がけてほしいことを４点申し上げます。

まず一点目ですが、「目標を持つ」ということです。

目標は、人それぞれに千差万別ですが、日々の努力が、何のためのものであるかを意味付けるのが目標です。目標は山の頂のようなものです。自分の登りたい山をしっかりと定めて欲しいと思います。皆さんが登りたいと思う山の一つが、学んだ知識や技術を現在及び将来の人類の幸福のためのものであってほしいと思っています。

二点目は、目標の達成のためには、「様々な方法」があるということです。山の頂である目標にたどりつくルートはいくつもあります。一見簡単そうに見えても、後半で急な上りとなるルート、早くつけそうだけれど、途中で道がなくなるルートなど、様々です。一つのルートがだめだからとあきらめず、効率的に目標を達成するため、情報収集能力を高め、知識を蓄え、分析し、努力を続けてほしいと思います。

三点目は、「仲間を大切にする」ことです。高い山の頂に上るためには、一人では限界があります。世界最高峰の登山では、チームで登頂します。その準備にも、多くの人々から支援を受け行います。皆さんは、この高専で素晴らしい、仲間を得たと思います。その仲間を大切に、そして感謝の気持ちを大切にしてください。特に困ったときに、相談できる仲間をもちつづけてください。新しい活躍の場でも、仲間づくりに心がけてください。

四点目は、「故郷（ふるさと）を愛し」続けていただきたい。福島高専は皆さんの第二の故郷です。これまで皆さんを育ててくれたふるさとでの日々、５年間または７年間を過ごした高専の日々をいつまでも大切にして欲しいと思います。苦しい時つらい時が、これからの人生で何度もあるでしょう。その際、故郷のことを思い出して欲しいと思います。皆さんはこれから、様々な場所で活躍しますが、故郷の自慢をすることをお願いしたい。海外では、自分のルーツを説明できることが基本ですので、海外で活躍する際にも是非お願いします。また、故郷を良くしていくための取組、福島復興への取組について、それぞれの立場で取り組むこともお願いしたいと思います。

本校における５年間、７年間の経験で、皆さんには、高専生としての、スピリッツが育まれたことと思います。培われた福島高専スピリッツを生かし、皆さんのこれからの人生が、幸多いものであることを祈念して告辞と致します。

機械システム工学科

Mechanical System Engineering



機械システム工学科卒業生の皆さんへ

５年担任　**鄭　　耀陽**

皆さん、高専卒業おめでとうございます。

福島高専での５年間（６年間、７年間かも）お疲れ様でした。

長き人生の中では、世界観形成に最も重要な時期は福島高専で過ごしてきましたね。

この数年間、本当に色々なことがありました、２年次入学してから新型コロナ感染拡大の影響で世界はすっきり変わってきました、学校生活も一変し、何回ものオンライン授業や２回連続の学級閉鎖はまだ鮮明に記憶しています。それでも、全員揃って無事に卒業できたことを率直に嬉しく思っています。

皆さんはこれから福島高専を巣立っていくわけですが、ぜひ福島高専で学んだ知識や培ったスキルをこれからの仕事や勉学に生かしてください、皆さんこれからの活躍を非常に期待しております。

また、同じクラスで学んだクラスメイトは将来にわたって付き合えるかけがえのない仲間です。皆さんこれから先、就職・進学・結婚・子育て・趣味・ボランティア・地域活動などの様々なシーンで、楽しい時も厳しい時もきっと大切な絆となってくれることを確信しております。何かあったときにぜひこの絆を思い出して大切に繋いでいって欲しいと願っています。

最後になりますが、暇のあるとき、私の研究室に顔を出して話をしてくれることをお待ちしております。

高専での思い出

５年　**安部　楽人**

福島高専に入学してから早５年、この日を迎えられたことをうれしく思います。私たちの学年では１学年の終わり頃にコロナが始まりました。コロナのせいで大変な思いをした人々には失礼になるかもしれませんが、私たちのクラスでは遠隔授業や試験が課題になり進級が楽になるという面もありました。高専での学生生活は特殊なもので、「入らなきゃよかった」という会話をよく耳にしましたが卒業が近づくにつれそうでもなかったと、みんなも感じていると思います。私事ではありますが、模範的な学生には最後まで成れず、出来ないもの同士でグダグダ言いながらこなし、あっという間に終わってしまった５年間でしたが、この学校で良かったと思える楽しい時間でした。

最後になりますが、お世話になった教職員の皆様、関係者の方々そしてクラスの皆さん５年間本当にありがとうございました。

電気電子システム工学科

Electrical and Electronic System Engineering



日々の積み重ねを大切に

5年担任　**山田　貴浩**

ご卒業おめでとうございます。皆さんと共に過ごした３年間、私にとってはあっという間でしたが、皆さんにとってはいかがでしょうか。

皆さんと本格的に付き合いが始まったのは、２年生の「電気回路Ⅰ」の授業でした。ちょうどコロナ禍で遠隔授業の方式が導入されたばかりで、まずは「お試し授業」として30分間のミニ授業をしたところからのスタートでした。遠隔授業をはじめ、高専在学中の大半を特殊な形で過ごすことになってしまいましたね。

制限がある中でも、実施が可能な学校行事について皆さんそれぞれに精一杯取り組んできたのではないでしょうか。４年生の校内体育大会や磐陽祭の動画制作、５年生の磐陽祭（催し物や学科展示）などでは、多くの人たちが協力している姿が見られました。

また、上級生になるとついつい疎かにしてしまいがちな日常的なこと（朝のHRへの出席、毎日の教室整備や日誌記入を含む日直の仕事など）も最後までしっかり取り組んでくれました。毎日の小さなことの積み重ねは、目立たないかもしれませんがとても重要なことです。これからも、その姿勢は大切にしてください。

最後になりますが、５年前の自分に胸を張れるように、そして５年後の自分を後悔させないように、今すべきことに精一杯取り組んで前を向いて進んでいってください。

長いようで短かった高専生活

5年　**大平　悠太**

期待と不安を抱いて門をくぐったあの日から早くも５年が経っていました。長いようで短かったこの５年間、レポートや課題に追われて大変な時もありましたが、卒業を迎えることができました。

５年間に及ぶ高専生活は波乱万丈でした。学校生活に慣れてきたと思えばコロナによる遠隔授業、台風やコロナ禍によって行われなかった文化祭、様々な制限がある中での低学年を過ごし、満足に授業を受けて、学校行事を行えるようになったのは高学年になってからのことでした。５年間の思い出としては少ないものになってしまいましたが、クラスメイトや先生方のおかげで充実した学校生活を送ることができました。

卒業後はそれぞれの道に進むと思いますが、クラスの皆さんの活躍を心から願っています。自分自身も負けないようにこの５年間の思い出を胸に頑張りたいと思います。

最後になりますが、お世話になったクラスの皆さん、先生方、本当にありがとうございました。

化学・バイオ工学科

Applied Chemistry and Biochemistry



さいごのお願い

５年担任　**十 亀　陽一郎**

卒業おめでとうございます。将来、とても厳しく辛い状況に直面することがあるかもしれません。どうか、なんとかして生き抜いてください。生きてさえいれば、なるようになるものです。みんなのゆく未来が平和ですてきでありますように。







楽しかった５年間！

５年　**岩 原　小 春**

長かったようで短かった高専生活がいよいよ終わります。

まずは先生方。５年間大変お世話になりました。無事卒業を迎えられたことうれしく思っております！

これからもみなさん仲良く、お元気でお過ごしください。

そして、仲良くしてくれたみんなへ〜！

５年間本当にありがとう！！！！ みんながいてくれたおかげで、この福島高専で楽しく過ごすことができました！！！

教室も学食も体育館もグラウンドも、校内のどこを切り取っても、みんなとの楽しい思い出で溢れています！！素敵な思い出をありがとう！

これからはそれぞれの場所で頑張ろうね〜！！

福島高専で過ごしたこの５年間、本当にたくさんの方々に支えていただきました！！

全ての方々へ心より御礼申し上げます！

都市システム工学科

Civil and Environmental Engineering



朝が来た

５年担任　**菊 地　卓 郎**

毎年、卒業のシーズンを迎えると「朝が来た」と思います。年齢を３で割るという人生の時計の考え方に当てはめると、皆さんの時計は朝の７時ぐらいとなり、朝を迎えています。

皆さんが過ごした高専時代という朝を迎えるまでの時間は多くの壁が現れて、その壁を一つひとつ自分の力で、時には助け合って、乗り越えた日々だったと思います。そして、辿り着いた高専のゴールからのスタートの時が今です。これからの人生の午前中の過ごし方次第でおいしいお昼ごはんに出会え、午後が充実し、ゆっくりゆったりとした夜を迎えられるかどうかが決まってくると思います。

さぁ、皆さん。どんな目覚めでしょうか。睡眠は十分でしょうか。朝ごはんはしっかり食べたでしょうか。これから１日が始まります。

いってらっしゃい！

個性豊かなクラス

５年　**中 町　優 希**

５年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

私自身、卒業を迎えた今、５年間が瞬く間に過ぎ去ったように感じます。思い返せば、私たちの学年は、１年生の頃に台風を、２年生以降は新型コロナウイルスの影響を受け、制限のある高専生活を送ってきました。しかし、今年は従来通りの体育祭、磐陽祭を経験し、最高の１年となりました。特に、このクラスは体育祭への想いが強く、３年、４年、５年と３年連続で学年優勝、総合優勝をしてきました。みんなと全力で競技に励み、大声で応援をした体育祭は一生忘れることのない思い出です。また、このクラスは多くの問題も起こしてきました。迷惑をかけた先生方、ご指導いただいた先生方、本当に申し訳ありませんでした。

最後に、５年間を共に過ごしてきた仲間たち、諸先生方へ深く感謝を申し上げるとともに、ご健康とご多幸をお祈りして、代表挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました！

ビジネスコミュニケーション学科

Business Communication



卒業おめでとうございます

５年担任　**高 木　信太郎**

卒業おめでとうございます。入学式から１人も欠けずに５年生になれたのは稀なことで、助け合いながら勉強を進められた皆さんの功績です。留年を始めとした大きな挫折がなかったのは誇るべきことですが、失敗をして学ぶことも多いはずです。高専で失敗しなかった分も、４月からは失敗するつもりで、失敗を恐れずに進んでほしいです。失敗は怖いと思いますが、人間は失敗から多くを学びます。わたしもたくさんの失敗をしましたが、皆さんを含めいろいろな人に助けてもらって、今を迎えることができました。様々なところでわたしの失敗をフォローしてくれた皆さん、ありがとうございました。今後も、失敗した人を助けながら、自分自身も失敗を恐れずに進んでいけば、自分ひとりでは到達できなかった場所に、みんなで到達できると思います。もしかしたら、皆さんが全員そろって卒業できたのも、そうした相互の関係が成立していたからなのかもしれませんね。今後、皆さんが今よりもさらに高いところへ到達できるよう、応援しています。

５年の軌跡

５年　**吉 田　健太朗**

「５年って長いな～」と思っていた高専生活も、ついに終わりを迎えます。右も左も分からなかった１年生。コロナ禍で会えない日々が続いた２年生。正念場だった３年生。将来を見据え始めた４年生。そして、自分の道を決めた５年生。５年の月日を振り返りながら、たくさんの思い出が鮮明に蘇ってきます。友達との他愛ない会話、熱狂した行事、赤点を取ったテスト。辛かったことも楽しかったことも、その全てが私たちを成長させ、同時にかけがえのない青春でした。

これから私たちは、それぞれが異なる道を進んで行きます。道中、高い壁が立ちはだかることもあるでしょう。そんなとき、この学び舎で得た経験は必ず私たちの武器になると、そう確信しています。

最後になりますが、お世話になった先生方、共に過ごしたクラスのみんなに心から感謝を伝えます。本当にありがとうございました。またお会いしましょう。

専攻科産業技術システム工学専攻

生産・情報システム工学コース



専攻科修了おめでとうございます

コース長　植　　英規

長い時間を福島高専で過ごした皆さんも、いよいよ修了です。福島高専での様々な経験を持って、今後も前向きに進んでいってください。

学生生活も終わり、これで勉強から解放されると思っているのなら、それは少し違います。SDGsを持ち出すまでもなく、世の中には多くの課題が山積しています。テクノロジーの進歩のスピードは凄まじく、それらについていくことは容易ではありませんが、テクノロジーこそが世の中を良くする大きな力になると信じます。技術者や研究者の仕事は、分からないことと対峙していくということ。皆さんは学校から社会へと環境を変えるだけで、新たな学びを重ねていくことになります。それぞれの場所で、自分の役割に真剣に、誠実に向きあい、分からないことを一つずつ乗り越えていってください。辛いと感じることもあるかもしれませんが、そうした積み重ねが皆さんを成長させ、世の中を少しずつ良くすることにつながるのだと思います。

7年間の高専生活を振り返って

2年　真船　真幸

長いようで短かった高専生活もついに終わりを迎えようとしています。私は福島高専に入学し、学生寮に入りました。入寮当初、右も左もわからない私に、アツいご指導を下さった５年生の先輩方の背中はとても大きく見えましたが、今となってはその学年を超えて７年生になりました。

高専生活を振り返ると、たくさんの記憶が蘇ってきます。レポートに追われる日々や親元を離れた寮生活など、大変なこともありましたが、友人と励ましあって乗り越えてきたことを思うと、とても愛おしい思い出だったと感じます。私がこうして宝物のような日々を過ごせたのは、最高の友人たち、手厚くご指導くださった先生方、そして７年間も学校に通わせてくれた家族のおかげです。心から感謝申し上げます。

春からは社会人となりますが、福島高専の名に恥じぬよう、そして後輩に良い背中を見せられるように真摯に努力していきたいと思います。７年間本当にありがとうございました。

専攻科産業技術システム工学専攻

エネルギーシステム工学コース



修了生の皆さんへ

コース長　**鄭　　耀陽**

皆さん、専攻科修了おめでとうございます。

福島高専での７年間（８年間）お疲れ様でした。

今年度はESコースでは去年体調不良で休学していた１名を含め、在籍している７名が全員揃って無事に修了できたことと就職できたことを率直にうれしく思っています。

皆さん、福島高専に在籍していた間、新型コロナ感染拡大の影響で世界はすっきり変わってきました、高専での学校生活にも大きな影響を与えました。遠隔授業や出席停止等がしばしばありました。それは不利な一面も当然ありますが、力を合わせ、知恵を絞り、困難を乗り越えたことをぜひプラス思考で捉えて今後の勉学や仕事に活かしてもらいたいです。

福島高専での７年間は皆さん人生の中に最も成長できた思春期で思い出いっぱいの時期だと思います。この７年間で培った絆を大切にしてずっと繋いでいてほしいです。

高専では専門知識を主に勉強し即戦力としてのエンジニアとして社会的評価が高い、一方決められた期間では一般高校、大学より人文知識の勉学は満足にはほど遠い、これからの更なる成長に人文知識が欠かせないものですのでなるべく補充してください。

最後になりますが、暇のある時、私の研究室に来られ話をしてくれることをお待ちしております。

感謝

２年　**吉田　尚矢**

本科での５年間、専攻科での２年間、人生の約三分の一を共にした高専の生活が修了を迎えようとしています。

振り返ると長いようであっという間な７年でした。高専に入学して最も良かったことは気の許せる友人達に出会えたことだと思います。楽しい思い出だけではなく試験や研究に追われる日々もありましたが、共に支え合える素晴らしい友人達の存在があり、辛く苦しい困難も乗り越えることができました。４月から始まる社会人生活はこれまでのような周りの支えは減り、自主性と責任を持った行動が求められるでしょう。社会の厳しさにくじけそうになることもあると思いますが、高専で培った知識と経験を活かして邁進していきたいと思います。

最後に、学業のほかにも日常生活や就職など様々なことを支えてくださった教職員の方々、友人、そして高専に７年通わせてくれた両親に心の底から感謝します。本当にありがとうございました。

専攻科産業技術システム工学専攻

化学・バイオ工学コース



修了おめでとうございます

コース長　柴田　公彦

専攻科修了おめでとうございます。

本科５年間、専攻科２年間、合わせて７年間過ごした学び舎から、いよいよ飛び立つときがきました。今、皆さんは新しい人生のスタートへ期待を膨らませつつ、その一方で不安も抱いていることと思います。何事も最初が肝心です。分からないことを何でもすぐ聞くことができるのは新人の特権です。早く新しい生活に慣れて良いスタートダッシュを決めて欲しいと願っています。

皆さんのこれからの人生は、福島高専の７年間とは比べものにならないほど長く、いろいろな問題や課題、今回の新型コロナのような予期せぬことも待ち受けていることでしょう。しかし、福島高専の７年間の様々な経験や努力が、これからの皆さんの人生において結実し、やがて大輪の花を咲かす日が来ると信じています。

最後に、健康にはくれぐれも留意してください。皆さんの活躍を期待しています。

お世話になりました

２年　石田　壮太

７年間の高専生活を修了し、私たちは期待と不安を胸に抱きながら新天地へと歩みを進めます。まずは私たちに厳しくも暖かいご指導をしてくださった先生方、苦楽を共有したクラスメイト、いつもそばで見守ってくださった保護者の方々に深く感謝申し上げます。

振り返ると、２年間の専攻科は充実した毎日の連続でした。研究が上手くいったりいかなかったりと一喜一憂した日々、他校の学生や先生方と意見を交換し合った学会発表、他学科を交えたグループワークなど、専攻科での生活は好きな研究を続けることができたと同時に多くの方とコミュニケーションをとることでより多角的な視野を身に着けることができ、いずれも自身の成長につながる貴重な経験でした。

７年間も過ごした福島高専を離れるのは名残惜しくもありますが、高専で得た知識や経験を活かし、モノづくりに取り組み、皆様の暮らしを支援していくことが最大限の恩返しだと思っています。是非これからの私たちの活躍に期待してください。大変お世話になりました。

専攻科産業技術システム工学専攻

社会環境システム工学コース



福島高専専攻科修了生として

コース長　**菊地　卓郎**

社会環境システム工学コースの皆さん、修了おめでとうございます。

数字でみれば、高専の本科生は同世代の人口の約１％となります。その中でさらに専攻科に進むのが10％程度です。少人数で学んだ専攻科の２年間は大学とは違うオリジナルな学びの多い時間となり、それが皆さんの強みとなっていることと思います。いろいろな意味で濃厚な専攻科での経験を活かして、福島高専専攻科修了生だからこその輝きを持って、これから進む次のステージで力を存分に発揮してください。

本科は60歳を越えましたが、専攻科は2004年生まれで皆さんより年下です。これから専攻科もさらに存在意義を高めていきたいと思いますので、皆さんも福島高専専攻科修了を胸にそれぞれの場所でご活躍ください。

縁を力に変えて

２年　**高橋　知輝**

同級生と切磋琢磨し、家族・先生方に背中を押されて駆け抜けた高専生活。往時を追懐すれば思わず上がる口角。縁に恵まれた７年間、関わったすべての方々に感謝申し上げます。

地元を離れ孤独だった入学式。いつの間にか友人に囲まれ、波乱万丈の日々を過ごしました。都市システム工学科の一期生として過ごした時間は非常に色濃く、珍獣図鑑のような卒業アルバムは、どんな文豪の作品よりも読み応えがあります。専攻科に進学後は、他分野の人との関わりが増えました。グループワークや試験、体育祭に飲み会と、何事も一緒に全力で楽しんだこと、忘れません。先生方と密接に関わることができた少数授業も思い出深いです。高専、そして専攻科という選択に後悔はありません。

これまでの日々も通過点。これからの毎日が人生のハイライトとはならないと思います。それでも踏ん張って、24時間で消えないストーリーを更新し続ける私たちに、どうか期待していてください。

専攻科ビジネスコミュニケーション学専攻

ビジネスコミュニケーション学コース



専攻科修了の皆様へ

コース長　湯川　崇

専攻科の修了、誠におめでとうございます。ビジネスコミュニケーション学科を卒業し、専攻科へ進学してから早いもので２年の月日が流れました。専攻科の授業やインターンシップ、そして特別研究を通して学んだ日々を経て、社会へと旅立つ皆さんに、心からの祝福の言葉を贈ります。ここで得た知識や経験が、皆さんがこれから進む道を照らす一筋の光となることを願っています。

現代社会は常に変化し、予測不可能な出来事が日常的に起こっています。皆さんがここで磨いたコミュニケーション能力とさまざまな知識は、どんな困難にも立ち向かう力となるでしょう。失敗を恐れず、常に学び続ける姿勢を忘れず新たな挑戦を続けてください。

皆さんが選ぶ道はそれぞれ異なるかもしれませんが、福島高専で経験したことを基盤として、成長し続けることと信じています。自らの道を自信をもって歩み、社会での活躍を通じて素晴らしい未来を築くことを、心から期待しています。

7年間ありがとうございました！

２年　北郷　みなみ

高専生活の一番の思い出は文化祭で行ったラジオ放送です。先生や職員さんは最高のラジオブースを作ってくださいましたし、一緒に番組を作った部員は行動力とユーモアがあって準備の段階からずっと楽しかったです。ゲスト出演してくれたみなさんにも感謝しています。おかげで面白い放送になりました。

先生も学生も前のめりに協力してくれるところが高専の最大の魅力だと思います。ラジオに限らず、研究室に行けば先生方はどんな相談にも乗ってくださいましたし、勉強や進路の悩みを共有してくれた友人にも助けられ、恵まれた７年間でした。支えていただいたすべての方に感謝します。本当にありがとうございました。

ちなみに、無線通信部はラジオ放送に参加してくれる学生を募集しているので興味のある方はぜひ参加してみてください。来年は完全防音のラジオブースもできるそうです。本当にうらやましいです。

本科生の進路状況（令和６年３月卒業）

（　）は女子学生

区　分	機械システム工学科	電気電子システム工学科	化学・バイオ工学科	都市システム工学科	ビジネスコミュニケーション学科	計
卒業者数	43（ 7）	39（ 4）	37（20）	40（12）	39（25）	198（68）
進学者数	12（ 1）	17（ 2）	14（ 6）	19（ 4）	29（17）	91（30）
就職者数	28（ 6）	18（ 1）	23（14）	21（ 8）	9（ 7）	99（36）
その他	3（ 0）	4（ 1）	0（ 0）	0（ 0）	1（ 1）	8（ 2）

専攻科生の進路状況（令和６年３月修了）

（　）は女子学生

区　分	産業技術システム工学専攻	ビジネスコミュニケーション学専攻	計
修了者数	21（ 6）	6（ 4）	27（10）
進学者数	2（ 0）	0（ 0）	2（ 0）
就職者数	18（ 5）	5（ 3）	23（ 8）
その他	1（ 1）	1（ 1）	2（ 2）

卒業生の進路一覧

機械システム工学科

福島高専専攻科（４名）　長岡技術科学大学（３名）　豊橋技術科学大学　茨城大学（２名）
宇都宮大学　静岡大学　電気通信大学　フィリピン語学学校　福島高専研究生（２名）
ANAラインメンテナンステクニクス㈱　NTTコムエンジニアリング㈱　小名浜製錬㈱
海洋技術研究開発㈱　㈱JERA　㈱MBM　㈱クレハ　㈱メンバーズ
㈱日立パワーソリューションズ　カルビー㈱　京セラ㈱　キヤノンメディカルシステムズ㈱
高周波熱錬㈱　サントリー㈱（３名）　常磐興産㈱　東京ガス㈱　東京水道㈱
第一三共ケミカルファーマ㈱　トーテックアメニティ㈱　日立造船㈱
フードテクノエンジニアリング㈱　ファナック㈱　三菱電機ビルソリューションズ㈱
ルネサスエレクトロニクス㈱　（国研）日本原子力研究開発機構（２名）

電気電子システム工学科

福島高専専攻科（６名）　長岡技術科学大学（２名）　豊橋技術科学大学　茨城大学（２名）
筑波大学　千葉大学　新潟大学　電気通信大学　横浜国立大学　東京都市大学　福島高専研究生進学希望者（２名）
NECネッツエスアイ㈱　アマゾンジャパン㈱　アルプスアルパイン㈱　九州旅客鉄道㈱
キヤノンシステムアンドサポート㈱　㈱TBSアクト　㈱アルファシステムズ（２名）　㈱クレハ
東京電力パワーグリッド㈱　東京電力ホールディングス㈱（２名）　浜松ホトニクス㈱
㈱東日本技術研究所　パナソニックオートモーティブシステムズ㈱（２名）
三菱電機エンジニアリング㈱　㈱ミライト・ワン　海外企業就職者

化学・バイオ工学科

福島高専専攻科（４名）　長岡技術科学大学　東北大学　福島大学　宇都宮大学（２名）　群馬大学
東京農工大学（２名）　島根大学　東京都立大学
ＪＸ金属㈱　曙ブレーキ工業㈱　アルプスアルパイン㈱　㈱AXSEED　㈱クレハ（２名）
㈱クレハ分析センター　㈱テルモ　クラウドエース㈱　クリナップ㈱　成和化学工業㈱
第一三共ケミカルファーマ㈱（２名）　第一三共バイオテック㈱　大日精化工業㈱
東洋システム㈱　東レ㈱（２名）　富士フイルムオプティクス㈱　メビウスパッケージング㈱
メルクパフォーマンスマテリアルズ合同会社　理研ビタミン㈱　（国研）日本原子力研究開発機構

都市システム工学科

福島高専専攻科（４名）　長岡技術科学大学（２名）　室蘭工業大学　福島大学　宇都宮大学
群馬大学　千葉大学　横浜国立大学（２名）　信州大学　岐阜大学　福井大学　高知大学
千葉工業大学　東京理科大学
エヌ・ティ・ティ・インフラネット㈱　㈱セレス　㈱大阪防水建設社　㈱東コンサルタント（２名）
西武建設㈱　東京ガスネットワーク㈱　東京水道㈱（２名）　東京都下水道サービス㈱（２名）
ドーピー建設工業㈱　内藤合同事務所　三菱地所コミュニティ㈱
森トラスト・ビルマネジメント㈱　福浜大一建設㈱（３名）　福島県庁　いわき市役所
（一財）ふくしま市町村支援機構

ビジネスコミュニケーション学科

福島高専専攻科（５名）　小樽商科大学　山形大学（３名）　福島大学（２名）　筑波大学
お茶の水女子大学（２名）　電気通信大学　新潟大学　静岡大学　名古屋大学　滋賀大学（２名）
神戸大学　島根大学　広島大学　九州大学　長野大学　日本大学（３名）　明治学院大学
進学希望者
アルプスアルパイン㈱　㈱ACN　㈱アトックス（２名）　㈱TBK　キヤノンアネルバ㈱
クリナップ㈱　東京ガスネットワーク㈱（２名）

修了生の進路一覧

産業技術システム工学専攻

あすか製薬㈱　ＮＴＴインフラネット㈱　サントリー㈱
ＪＸ金属㈱（３名）　信越半導体㈱　第一三共ケミカルファーマ㈱
中外製薬㈱　東北電力㈱　トヨタ自動車東日本㈱　㈱ＮＥＳＩ
三菱ガス化学㈱　いわき市役所　つくば市役所
（国研）日本原子力研究開発機構（２名）（公財）東京都都市づくり公社

ビジネスコミュニケーション学専攻

Ｆｅｌｉｓ㈱　アクセンチュア㈱　㈱メンバーズ　㈱Ｒｉ-speＫｔ
いわき市役所　ＣＰＡ会計学院



学　生　会

この一年がこれからの礎となったことを願って

化学・バイオ工学科　４年
木　村　泰　地

昨年度は、磐陽祭をはじめとした様々な行事が平常運転に戻ったため、学生会活動形態もコロナ以前に戻すことが要求されました。

まずは、以前からの問題として挙げられていた、「学生会役員の減少」「本校における学生会活動を周知すること」の解決をしなければ活動規模拡大できないと考え、広報活動に力を入れることとなりました。

具体的には、無線通信部と連携した相互の広報活動や、学生会Instagramの開設が挙げられます。

結果として、一昨年度と比較して役員の数は２倍以上に増え、これまでより、学生会活動に興味を持っていただける環境づくりができたと感じています。さらに、東北地区リーダー交流会の参加により、他高専学生会と連携・情報交換をしながらの学生会運営も叶いました。

昨年度の磐陽祭には一関高専と仙台高専名取の学生会長を招待したことにより、学生会同士の結びつきを強化するとともに、文化祭運営に関する意見交換ができました。

交流会が終わった現在でも連絡を取り合い、お互いの学生会活動に関する意見を取り合っています。私の代でできたのはここまでですが、この一年がこれからの学生会の繁栄の礎となったことを願って、次の代に託そうと思います。

最後となりましたが、私を学生会長として支えてくれた役員皆様や先生方、活動に協力してくださった学生の皆様、ありがとうございました。



七夕飾り



クリスマス装飾を設置しました



令和5年度 小論文コンクール

２年生を対象に、小論文コンクールを実施しました。本年度は「SDGs実現のために自分のできること」というテーマでした。また、事前に小論文の書きかた、図書館での調べかたを学び、必ず参考文献を引用することを求めました。

学年が上がるにつれ、長い文章を書く機会は増えていきます。難しい言葉を使う必要はありませんから、一文を短くまとめることを意識してみましょう。また、参考文献から学んだことをまとめるだけにならないよう注意しましょう。ちょっとしたことでいいので、自分なりの新たな視点や気づきを提示するのが重要です。

今後もさまざまな知見を学び、その上に立って世界を見渡し、自分の言葉で考え続けてほしいと願っています。

小論文コンクール 表彰者

◆最優秀賞
- 化学・バイオ工学科 ２年　小野　夏美

◆優秀賞
- 電気電子システム工学科 ２年　宮澤　宏遙
- ビジネスコミュニケーション学科２年　斉藤　らこ

◆奨励賞
- 機械システム工学科 ２年　重村　台知
- 都市システム工学科 ２年　船山　　真

最優秀賞

課題　SDGs実現のために自分のできること

化学・バイオ工学科２年　**小野　夏美**

SDGs実現のために自分のできることは何かを考えるにあたって文献を探していると、村尾隆介著『今日からできる！小さな会社のSDGs』の中の『イベントのたびに「Ｔシャツをつくる」という癖を止める』という見出しが目に止まった。

これは、「つくる責任つかう責任」の目標に関する話で、イベントのたびに作られるＴシャツはそのイベントでしか着用されず、持ち帰ったとしても良くて寝間着かタンスの肥やし、最後はゴミ箱行きにしかならない。それならばＴシャツを作らないか、寄付先の団体を決めてから作るべきだという内容である。私はこの考えに非常に納得した。なぜなら私自身今、体育祭用のクラスＴシャツを着用しているからである。さらに、体育祭が終わったら部屋着にしようかな、でも素材が思ったよりもつるつるてらてらとしていて着にくいからしまっておこうかな、と考えている。村尾氏が問題点として挙げたとおりである。

この問題について私ができることは、イベントＴシャツの文化を残しつつ、環境に優しい代替品を提案することである。身につけられるものが良いので、リストバンドや腕章、缶バッジなどが適していると考えた。これならばＴシャツよりも少ない資源でつくることができるうえ、Ｔシャツよりも簡単に身につけられるため、着こなしの幅も広がる。イベント後に寄付する前提で、落ちついたデザインでしっかりした布地のＴシャツやタオルなども良いだろう。

こうして考えてみると、今あるものでも少し工夫するだけで資源の無駄遣いを減らせることがわかった。イベントＴシャツ以外にも、過剰包装の商品は買わない、ホテルなどでノベルティを必要以上に使わないなど少しの心がけでSDGsに貢献できるのではないだろうか。

令和５年度福島県高等学校新人体育大会

■ソフトテニス競技
男子団体戦　2回戦敗退
女子団体戦　1回戦敗退
男子個人戦　宮澤　宏遙（2E）
　齋藤　櫂里（2E）ペア　2回戦敗退

■卓球競技
男子団体戦　3回戦敗退
女子団体戦　2回戦敗退
男子シングルス　王　優世（1C）　3回戦敗退
　大和田将寿（2C）　2回戦敗退
男子ダブルス　清野　雅仁（2M）
　王　優世（1C）ペア　3回戦敗退
女子シングルス　永山　和奏（1C）　2回戦敗退

■バドミントン競技
男子団体　1回戦敗退
男子ダブルス　伊藤　龍臣（1M）
　若松　祐希（1M）ペア　2回戦敗退
　髙橋　幸汰（1E）
　山田蒼之介（1M）ペア　1回戦敗退
女子シングルス　大石　愛陽（2T）　ベスト16

■弓道競技
団体競技男子　予選敗退
団体競技女子　準決勝進出
個人競技男子　神永　知輝（2T）　予選敗退
　木ノ内虎太朗（2T）　予選敗退
　柳井　玲泉（2B）　予選敗退
個人競技女子　南　沙奈（2C）　決勝進出

■バレーボール部
男子団体戦　2回戦敗退

■水泳部
◎第31回東北高等学校新人水泳競技大会
男子400m自由形
　西山　遙人（2M）　予選敗退
男子4×100mフリーリレー　予選敗退

各協会・連携主催大会等

■硬式野球部
◎第28回国体開催記念いわき支部高校野球大会
1回戦敗退

各種大会等の結果

■バスケットボール部
◎令和５年度東北地区高等専門学校バスケットボール新人大会
男子　福島 29-25 八戸
　福島 26-23 一関
　福島 39-37 仙台名取
　福島 48-18 仙台広瀬
　福島 21-48 秋田
　福島 37-36 鶴岡
女子　福島 11-32 八戸
　福島 23-39 秋田
　福島 39-25 仙台名取

■ソフトテニス部
◎令和５年度福島県高等学校ソフトテニスインドア大会
男子個人戦　宮澤　宏遙（2E）
　齋藤　櫂里（2E）ペア　1回戦敗退

■弓道部
◎第23回東日本高等学校弓道大会福島県予選大会
団体競技女子　第13位

■吹奏楽部
◎第43回定期演奏会　開催

■茶華道部
◎いわき学校茶道連盟第54回合同発表会　参加

■カバディ愛好会
◎第32回全国学生カバディ選手権大会
　関根　彩夏（5E）　優勝（YKA学生連合所属）

■鐵道愛好会
◎第15回全国高等学校鉄道模型コンテスト全国大会
奨励賞
◎第12回全国高校生地方鉄道交流会　代表理事賞
◎会津鉄道フォトコンテスト
　花井　仁（1M）　2024年３月　社長賞

連合会主催のコンテスト等出場結果

■都市デザイン研究会
◎第20回全国高等専門学校
デザインコンペティション2023 in 舞鶴
構造デザイン部門
　吉田　里奈（4T）
　門脇　真音（4T）
　宗像　彩乃（4T）
　大津留優空（2T）
　三瓶　蒼惟（2T）　審査員特別賞受賞
プレデザコン部門
　金沢　笑瑚（1T）
　小田嶋美海（1T）
　斎藤あかり（1T）　最優秀賞受賞

■ロボット技術研究会
◎アイデア対決・全国高等専門学校
ロボットコンテスト2023東北地区大会
製作・調整協力：ロボット技術研究会学生
・Aチーム「桃機強靭」
　齋藤　臣（2M）
　佐藤　陸（2E）
　田子　怜吾（3M）　準優勝
・Bチーム「白虎」
　遠藤　健太（3M）
　久保田磨雄（3C）
　根本　陽介（3M）
　ベスト４・技術賞受賞・全国大会出場

◎アイデア対決・全国高等専門学校
ロボットコンテスト2023全国大会
製作・調整協力：ロボット技術研究会学生
・代表チーム「白虎」
遠藤　健太（3M）
久保田磨雄（3C）
根本　陽介（3M）
2回戦敗退・特別賞（株式会社デンソー）受賞

◎第17回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト
石本　愛里（2B）
鈴木　友菜（2B）
西塚　礼莉（2B）
発表タイトル
「SDGs Initiatives by The Company in Iwaki City」
チーム部門出場

■ソフトウェア研究会
◎第34回全国高等専門学校プログラムコンテスト
井上　優汰（5E）
佐藤　匠悟（5E）
水野　皓太（5E）
ファーストステージ1勝1敗
セカンドステージ勝利
ファイナルステージ1回戦敗退

表　彰

●専攻科学業優秀賞
産業技術システム工学専攻
生産・情報システム工学コース2年　真船　真幸
エネルギーシステム工学コース2年　戸井田凌征
化学・バイオ工学コース2年　菅野　長貴
社会環境システム工学コース2年　高橋　知輝
ビジネスコミュニケーション学専攻
ビジネスコミュニケーション学コース　北郷みなみ

●特別表彰
ＴＯＥＩＣ成績900点以上取得者
機械システム工学科3年 SHAREEZ DANIAL BIN MOSHAT
化学・バイオ工学科5年　盛川　美鈴
ビジネスコミュニケーション学科5年　四家穂ノ花
上記に匹敵する全国レベルの各賞受賞など
【国際的な学術専門誌に査読付き論文が掲載（採択）されたため】
化学・バイオ工学科5年　箱﨑惇太朗
齊藤　優汰
【情報処理学会　第85回全国大会　学生奨励賞受賞】
ビジネスコミュニケーション学科5年　村上　紗彩
【一般社団法人環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生のための学会最優秀ポスター発表賞受賞】
都市システム工学科5年　相澤　夏瞳
【第20回全国高等専門学校デザインコンペティション【プレデザコン部門】最優秀賞受賞】
都市システム工学科1年　金沢　笑瑚
小田嶋美海
斎藤あかり
【第20回全国高等専門学校デザインコンペティション【構造デザイン部門】審査員特別賞受賞】
都市システム工学科4年　吉田　里奈
門脇　真音
宗像　彩乃
都市システム工学科2年　大津留優空
乗原　颯太
三瓶　蒼惟

●学会表彰
社団法人日本機械学会　畠山賞
機械システム工学科5年　長谷川将武
電子情報通信学会東北支部優秀学生賞
電気電子システム工学科5年　浅見　圭祐
電気学会東北支部優秀学生賞
電気電子システム工学科5年　村松　蒼大
計測自動制御学会 優秀学生賞
電気電子システム工学科5年　佐藤　綾亮
日本化学会　東北支部長会
化学・バイオ工学科5年　盛川　美鈴
全国高専土木工学会　近藤賞
都市システム工学科5年　河内　琉生
情報処理学会東北支部 学生奨励賞
ビジネスコミュニケーション学科5年　村上　紗彩

●福島高専協力会長賞
機械システム工学科5年　赤池　叶
江尻　康太
電気電子システム工学科5年　大平　悠太
芳賀　大樹
化学・バイオ工学科5年　伊藤　るな
岩原　小春
都市システム工学科5年　相澤　夏瞳
中町　優希
ビジネスコミュニケーション学科　村上　紗彩
吉田　愛結

●福島高専同窓会長賞
都市システム工学科5年　豊増　汰一
ビジネスコミュニケーション学科5年　西山　史栞

環境放射能除染研究発表会で最優秀ポスター発表賞、優秀ポスター発表賞を受賞

８月30日（水）・31日（木）に、とうほう・みんなの文化センターで開催された、第12回環境放射能除染研究発表会において、本校都市システム工学科５年 相澤夏瞳さんの研究発表が最優秀ポスター発表賞、同 牧野陸さんの研究発表が優秀ポスター発表賞をそれぞれ受賞しました。

本発表会では、高校・大学・研究所・企業等による28件のポスター発表が行われ、最優秀ポスター発表賞１件、優秀ポスター発表賞６件の表彰がありました。そのうち、本校学生の発表が高い評価を受け、今回の受賞に至りました。

相澤さんは、「福島県内土壌におけるCs平衡・非平衡吸着挙動の一考察」と題し、放射性物質の１種であるセシウムが、自然地層（天然土壌）にどの程度吸着するのかを化学・土木工学の視点から評価した結果を発表しました。

牧野さんの研究発表「猪骨を用いたストロンチウム吸着材の基礎検討」では、放射性物質の１種であるストロンチウムの吸着材を猪骨から生成し、その物性評価および吸着能について発表しました。

◆最優秀ポスター発表賞

受 賞 者：相澤　夏瞳
研究題目：福島県内土壌におけるCs平衡・非平衡吸着挙動の一考察
結　　果：最優秀ポスター発表賞

◆優秀ポスター発表賞

受 賞 者：牧野　　陸
研究題目：猪骨を用いたストロンチウム吸着材の基礎検討
結　　果：優秀ポスター発表賞



左から田口校長、牧野さん、相澤さん、三浦指導教員

福島国際研究教育機構（F−REI）トップセミナーを実施

９月25日（月）、26日（火）に、第３学年を対象としたF−REIトップセミナーが実施されました。このトップセミナーは、地域の未来を担う若者世代等を対象としたF−REIの人材育成の取組の一環として行われました。

初日は監事の森下信先生、二日目は理事長の山崎光悦先生から、それぞれ最先端の科学技術の魅力を紹介しながら、人間力を高める重要性などが語られ、学生の将来の活躍に向けて激励の言葉が贈られました。両日とも講演終了後には学生から活発に質問が寄せられ盛況のうちに終了しました。



監事　森下信先生の講演の様子



理事長　山崎光悦先生の講演の様子

イノベーションコモンズ竣工式を開催

11月３日（金・祝）、イノベーションコモンズの竣工式を開催しました。

イノベーションコモンズは、正面玄関から中庭の工学池周辺及び磐陽会館２階のカフェスペースまでを範囲としており、学生が集う場としてだけではなく、教職員や地域の企業等も含めた交流の場として、イノベーションを促進することを目的としています。

竣工式では、本校の田口校長より「イノベーションコモンズが、地域・産業界との「共創」、異なる研究分野を持つ、学生・教職員の「共創」の促進に役割を果たし、福島浜通りの復興、新事業・新産業の創出など地域の発展に貢献していくよう努めていきたい」と挨拶がありました。

続いて、カフェスペースのネーミング「ひだまりカフェ」が発表され、考案した鈴木美桜さん（化学・バイオ工学科２年）に表彰状が贈られました。

その後、いわき商工会議所 小野会頭、庄司福島高専協力会長、野口福島高専同窓会長、山下前校長、株式会社加地和組 青木代表取締役専務、有限会社ハコプラスデザイン 新妻代表取締役、田口校長、学生会長 木村泰地さん（化学・バイオ工学科４年）らによるテープカットが行われ、イノベーションコモンズの完成を祝いました。

式終了後は、学内の見学会を実施した後に磐陽会館１階の食堂で祝賀会が開催され、60名を超える参加者は交流を深めていました。

今回の60周年記念事業では協力会企業様をはじめ、同窓生など多数の方々から多大なるご寄附をいただきました。ご寄附いただいた方のご芳名を記載した記念銘板を正面玄関に設置いたしました。本校にお越しの際は是非ご覧ください。



ネーミング表彰


式後の記念撮影



テープカットの様子


ノンアルコールで行われた祝賀会の様子


見学会の様子（磐陽会館２階カフェスペース）


正面玄関に設置された記念銘板

TOPICS

全国高専デザコンでダブル受賞

11月11日（土）・12日（日）に、舞鶴市総合文化会館で第20回全国高等専門学校デザインコンペティションが開催され、本校から出場した２チームがそれぞれ、「構造デザイン部門」で審査員特別賞、「プレデザコン部門　創造デザインフィールド」で最優秀賞を受賞しました。

「構造デザイン部門」では、紙を素材とする橋の耐荷性・軽量性・デザイン性などを総合的に競いました。「プレデザコン部門　創造デザインフィールド」は、来年度のデザコンのメインテーマ「繋」をイメージできるトートバッグのデザインが競技課題で、本校の作品が来年度大会のトートバッグのデザインに採用されました。

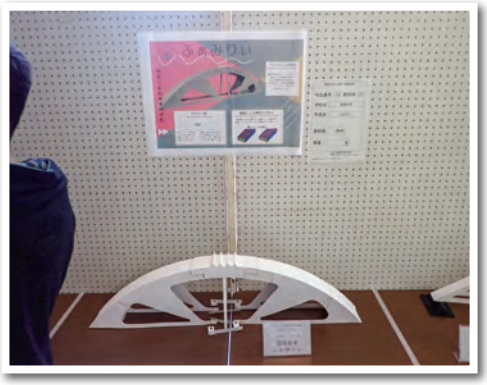
今回受賞したチームのメンバーは以下のとおりです。

◆構造デザイン部門

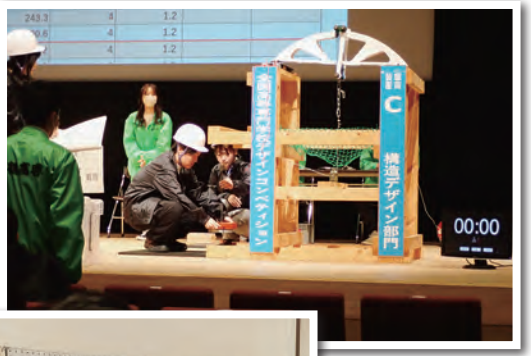
作品名：ふぁみりぃ
チームメンバー：
吉田　里奈（都市システム工学科４年）
門脇　真音（都市システム工学科４年）
宗像　彩乃（都市システム工学科４年）
大津留優空（都市システム工学科２年）
楽原　颯太（都市システム工学科２年）
三瓶　蒼惟（都市システム工学科２年）
結　果：審査員特別賞
（54作品中、入賞作品は６件）

◆プレデザコン部門

作品名：TUNAGARU　TUNAGERU
チームメンバー：
金沢　笑瑚（都市システム工学科１年）
小田嶋美海（都市システム工学科１年）
斎藤あかり（都市システム工学科１年）
結　果：最優秀賞
（17作品中、入賞作品は３件）



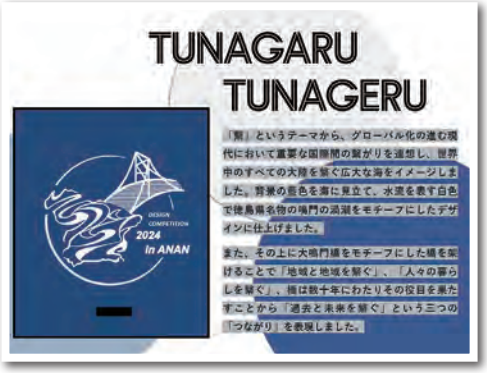
展示の様子（構造デザイン部門）



競技の様子
（構造デザイン部門）



展示の様子
（プレデザコン部門）



受賞した作品（プレデザコン部門）



受賞した学生と田口校長、相馬指導教員
（上段：田口校長、小田嶋さん、金沢さん、斎藤さん、相馬指導教員
下段：門脇さん、宗像さん、吉田さん、三瓶さん，大津留さん）

輝くリケジョを育てるプログラム～ひとつ，ひとつ，実現するふくしま～「産業技術総合研究所 福島再生エネルギー研究所（FREA）見学会」を開催

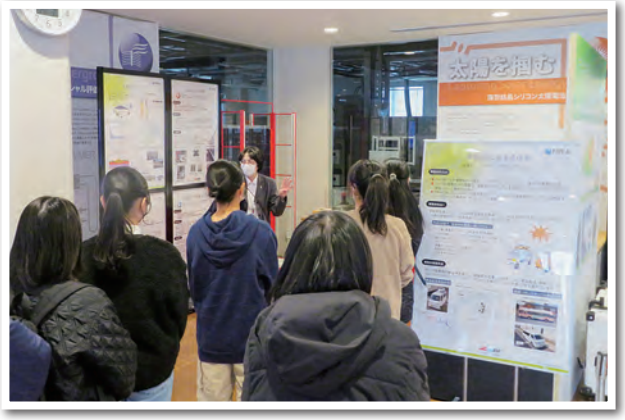
11月18日（土）、県内の女子中学生・高校生を対象とした「産業技術総合研究所　福島再生エネルギー研究所（FREA）見学会」を開催しました。

本校は昨年度、JST公募事業「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択され、女子中高生とその保護者・教員が理工系分野への理解を深め、理系進路選択を考えるきっかけになるような様々な体験プログラムを実施しています。今回の見学会には、県内各地から女子中高生、保護者あわせて11名に参加いただきました。

初めに、本校赤尾教員から本事業の説明を行い、続いて、産総研FREAの宗像所長から研究所の概要をご説明いただきました。その後、敷地内にある再生可能エネルギーに関する施設を回りながら、本研究所で研究している内容について研究員の方から説明を受けました。

第二部は、産総研で勤務する女性の研究員２名の方から、理系を選択した経緯や現在の研究所での勤務についてなど、ご自身の体験を踏まえた発表をしていただきました。

参加者からは、「再生可能エネルギーについての説明がとても分かりやすかった」「授業で分からなかったところが理解できた」「研究者の仕事内容を知ることができた」との感想をいただきました。



研究の説明



女性研究者の発表

福島国際研究教育機構（F−REI）による教職員向け講演会を実施

11月21日（火）、福島国際研究教育機構（F−REI）の山崎光悦理事長を講師に、教職員向け講演会を開催しました。本校はF−REIと４月１日付で連携協力に関する基本合意書を締結しており、研究や人材育成等の分野で連携を進めることとしています。今回は具体的な連携に向けて、F−REIの概要や福島、東北の創造的復興を目指すための取組についてご講演いただきました。

F−REIが取り組む研究分野における方針についても説明があり、質疑のコーナーでは研究面での連携に向けた課題等に関して活発な意見交換が行われました。



講演を行う山崎光悦理事長

TOPICS

高専ロボコン2023全国大会で株式会社デンソー特別賞を受賞

11月26日（日）、第36回 アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2023全国大会が両国国技館において開催され、本校出場チームが株式会社デンソー特別賞を受賞しました。

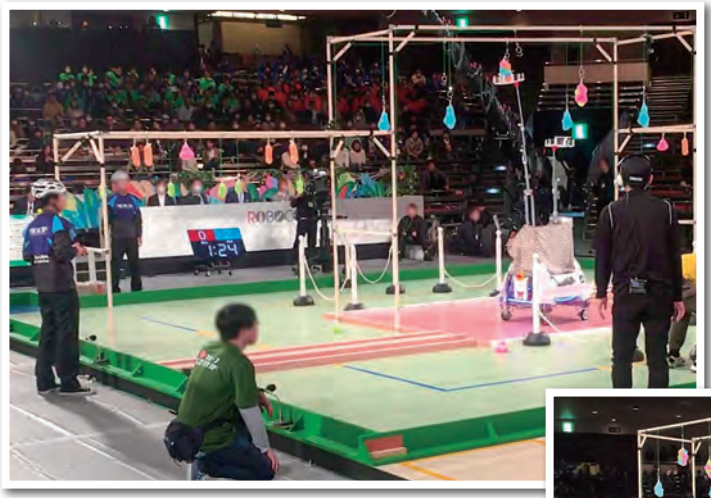
今年の競技課題は「もぎもぎ！フルーツＧＯラウンド」で、ロボットが障害物を越えて周回走行し、高所にあるフルーツのオブジェを収穫して持ち帰るというものでした。

本校からは、東北地区大会で推薦を受けた以下のチームが参加しました。

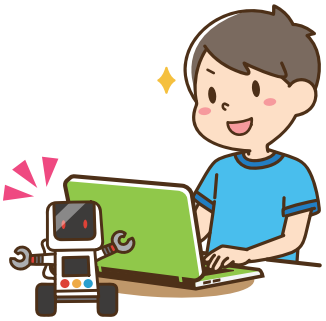
プロジェクト名：白虎
出場メンバー：遠藤　健太（機械システム工学科３年）
久保田磨雄（化学・バイオ工学科３年）
根本　陽介（機械システム工学科３年）
ピットクルー：仲井　洸貴（機械システム工学科５年）
斎野　朝日（電気電子システム工学科５年）
庄野　　湊（機械システム工学科３年）
本郷凌太郎（機械システム工学科３年）
大橋　ほの（化学・バイオ工学科１年）
製作・調整協力：ロボット技術研究会学生

本校出場チームが製作したロボットは、東北地区大会で不調だったところを見直し、より速く、より確実に得点することができるように改善しました。

全国大会の１回戦では、徳山高専に１対73で勝利し、２回戦では、最後にスタートゾーンに戻ることができず、高得点を逃して、香川高専詫間キャンパスに41対１で敗退しましたが、地区大会ではできなかったパフォーマンスを、全国大会では実戦で披露できました。



競技の様子





試合に臨むメンバー

「いわきカーボンニュートラル社会連携共同講座」レーシングドライバー 飯田 章 氏による特別講義を開催

12月１日（金）、「いわきカーボンニュートラル社会連携共同講座」の一つとして、レーシングドライバーの飯田章氏による特別講義を開催しました。

本講座は通常、専攻科１年生と社会人が受講していますが、飯田氏のご厚意により、本科生・専攻科生・教職員の希望者は誰でも受講できる講義となりました。

講義では、「モータースポーツとカーボンニュートラル」と題し、EV自動車の種類や水素自動車の安全性、モータースポーツの今後についてご説明いただきました。また、飯田氏自ら水素自動車を運転し参戦したEV−GPの様子や、世界のEV自動車・二輪車のレースなどを動画を交えてご紹介いただきました。

講義終了後は、この日のために運搬いただいた車両「LFA」と「MIRAI」を前に、実際に触れながら車両の構造などの説明があり、受講者は充実した時間を過ごしていました。



講義の様子



受講者と記念撮影



車両の説明

SDGs Webinar 2023「SDGs達成へ〜育てアントレプレナーシップ」を開催

長岡技術科学大学・豊橋技術科学大学との共催で「SDGs Webinar 2023」を開催しました。

本Webinarでは、９月30日（土）～12月２日（土）にかけてオンライン形式で６回のワークショップを開催し、12月９日（土）にハイブリッド形式で最終発表会を実施しました。

本校学生16名、長岡技科大生６名、豊橋技科大生２名、合計24名の学生が参加し、一連のワークショップでSDGs達成に向けた条件やそのマインド作り、世界の取組事例、アイデアの見つけ方やブラッシュアップの仕方等について学びました。また、チームごとのグループワークでは、５チームに分かれ、SDGs17を取り入れたビジネスモデルプランの作成に取り組み、最終発表会でプレゼンテーションを行いました。優秀な２チームには「ベストプレゼン賞」「つながる未来賞」が授与されました。



発表会の様子

第８回廃炉創造ロボコンを開催

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（JAEA）及び廃止措置人材育成高専等連携協議会（会長：福島工業高等専門学校長）が主催する「第８回廃炉創造ロボコン」が12月23日（土）、JAEA楢葉遠隔技術開発センターを会場に実施されました。

この廃炉創造ロボコンは、ロボット製作を通じて学生に廃炉に関する興味を持たせると同時に、困難な課題の解決に挑むことで創造性の涵養に貢献すること、また、課題発見能力、課題解決能力を養うことを目的として平成28年度から開催されています。

大会では書類選考によって選ばれた全国の国公立高専13校16チームと海外から参加のマレーシア工科大学を含む全17チームが競技を行いました。

競技は前回に引き続き、原子炉建屋内における高線量エリアの遠隔高所除染を想定した課題によって行われ、ロボットが壁までの指示された経路を通り、汚染された高さ2700㎜、幅1000㎜の壁の上部を除染するというものでした。実際の除染は壁の表面を削るなどする放射性物質を取り除きますが、本競技では指定のペンで壁に設置された模造紙を塗り潰すことで作業の精度が評価され、10分間の実演によって競われました。競技では各チームが創造性を発揮し課題に挑む中、完成度の高さなどが評価された小山高専が２年連続で最優秀賞の文部科学大臣賞に輝きました。

各賞受賞校は、次のとおりです。

- **文部科学大臣賞（最優秀賞）**：小山高専（小山高専廃炉ロボット製作チーム2023）
- **福島県知事賞（優秀賞）**：熊本高専（熊本高専熊本キャンパスロボコン部）
- **日本原子力研究開発機構理事長賞（技術賞）**：一関高専（藤原研究室Ｂチーム）
- **国立高専機構理事長賞（アイディア賞）**：舞鶴高専（舞鶴高専廃炉研究会Ｂ）
- **福島イノベーション・コースト構想推進機構理事長賞（イノベーション賞）**：大阪公立大高専（Fukaken）
- **特別賞（アトックス賞）**：福島高専（福島廃炉研究会）
- **特別賞（日立ＧＥニュークリア・エナジー賞）**：マレーシア工科大学（MJIIT）
- **特別賞（東京エネシス賞）**：鶴岡高専（鶴岡高専Ｆチーム）
- **特別賞（アスム賞）**：大阪公立大高専（昆虫同好会）
- **特別賞（東芝エネルギーシステムズ賞）**：富山高専（KANEKENS）
- **特別賞（エイブル賞）**：大阪公立大高専（公大高専ろぼ部廃炉チーム）



参加学生の集合写真


競技の様子



最優秀賞を受賞した小山高専チーム

高校生ビジネスプラン・グランプリで２年連続ベスト100に選出

日本政策金融公庫（略称:日本公庫）主催「第11回創造力、無限大∞ 高校生ビジネスプラン･グランプリ」で、本校ビジネスコミュニケーション学科２年 国井奏さん、西條あやめさんのプランが「ベスト100」に選出されました。本校からベスト100への選出は２年連続となります。

ビジネスプラン・グランプリは、高校生および高専生（１～３年生）を対象とした日本の未来、地域の未来を切り拓くビジネスプランを競う全国規模の大会です。第11回大会には、過去最多の参加校数 505校･総数 5,014件の応募がありました。



左から田口校長、大仁田指導教員、受賞した西條さん、国井さん、
日本政策金融公庫　藁田いわき支店長

１月19日（金）に本校で行われた表彰式では、日本公庫 いわき支店 藁田支店長から二人に表彰状が授与され、「プランの完成度が高く、事業化することを期待します」とのコメントをいただきました。

受賞者：国井　　奏、西條あやめ
ビジネスプラン：“Enjoy the Youth”
コロナ禍での学校生活を経験し、学校生活をより充実させたいと考え、学校生活＝青春を楽しむためのビジネスプランを創出しました。プランは、高校生が欲しい「モノ」（例：学校カバン、文房具など）と国内外の「情報」（例：体育祭のＴシャツの作成方法、流行している音楽など）をサブスクリプション（定額制）で提供するものです。
結　果：ベスト100

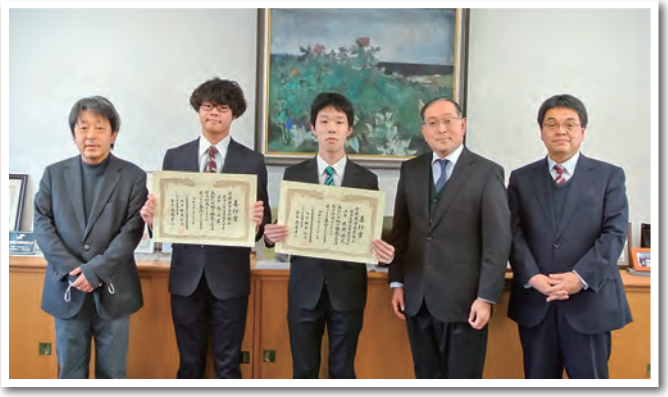
学校警察連絡協議会より17年ぶりに「善行賞」を受賞

１月22日（月）、いわき市生涯学習プラザで開催された令和５年度第２回いわき中央警察署管内学校警察連絡協議会（通称学警連）において、本校の学生２名が詐欺被害を未然に防止したことにより「善行賞」を受賞しました。

電気電子システム工学科５年の馬上隼さんは、令和５年５月に中央台のアルバイト先で高齢者が高額のギフトカードを購入しようとしたことを不審に思い、従業員と連携して購入を引き留めたところ、詐欺の被害を未然に防ぎました。

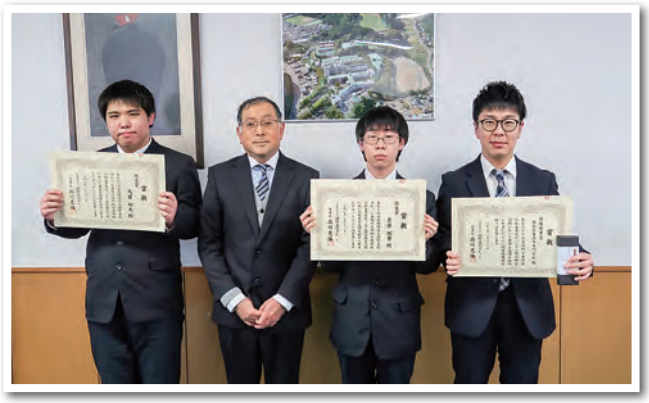
また、同学科５年の水野皓太さんは、令和５年12月に勿来のアルバイト先で高額なプリペイドカードを購入しようとした高齢者から話を聞き、詐欺の可能性を考え警察に通報し、なりすまし詐欺被害を未然に防ぐことが出来ました。

本校としては、17年ぶりの学警連からの表彰です。最近世間を騒がせている高齢者への詐欺を未然に防止し、文字通りの「善行」でした。


左から笠井学生主事、馬上さん、水野さん、
田口校長、担任の山田准教授

TOPICS

ディジタル技術検定試験で優良賞及び団体優秀賞を受賞



左から馬目さん、田口校長、齊藤さん、橋本指導教員

公益財団法人国際文化カレッジ主催のディジタル技術検定試験（文部科学省後援検定）において、令和５年度の成績優秀合格者として、本校の学生２名が「優良賞」を受賞しました。また、団体として多くの学生が優秀な成績を収めたことが評価され、本校が「団体優秀賞」を受賞しました。団体での受賞は、令和２年度（団体優秀賞）、令和３年度（文部科学大臣賞）、令和４年度（団体優秀賞）に続いて４年連続となりました。

同試験は、情報処理・制御に関する技能や知識をディジタル技術という観点から評価する検定試験です。文部科学省後援ということもあり、多くの企業で高く評価されています。今年度は、本校電気電子システム工学科の３・４年生から33名が受験し、30名の学生が合格しました。

◆受賞一覧　個人賞　・優　良　賞　電気電子システム工学科３年　齊藤　俐貴（３級）
電気電子システム工学科３年　馬目　翔矢（３級）
団体賞　・団体優秀賞

本科１～３年生を対象としたキャリア教育を実施

令和５年度後期から、本科１～３年生を対象として、福島高専協力会会員企業を招いたキャリア教育がスタートしました。

10月３日（火）には、都市システム工学科３年生を対象に１回目が実施され、株式会社福山コンサルタントの長尾様、本校OB大樂様に仕事の紹介や、進路選択で重要なことについて講義いただきました。

講義を受けて、学生達は将来のことや進路を考えるきっかけとなりました。



講義の様子①



講義の様子②

ものづくり工房（現 磐陽テックガレージ）開設記念 プレオープンコンテストを実施

「文部科学省スタートアップ教育環境整備事業」によって整備している「ものづくり工房（現 磐陽テックガレージ）」のプレオープンコンテストを実施しました。この工房は、アントレプレナーシップの育成を目的に、学生の自由なアイデアを形にするための試作工房として３月中の完成を目指し整備が行われています。完成後は授業、課外活動等で学科・学年を問わず全学生が主体的な活動を行える場として活用される予定です。

この度開催したコンテストは、工房の正式なオープンを控え、この取組への機運の醸成と、工房の宣伝を兼ねて行われたものです。２月19日（月）には応募作品の審査会が行われ、参加した個人・団体18組による２分間のプレゼンテーションと作品の展示、質疑応答を経て審査員による採点が行われ、表彰者が決定しました。

本校では、社会の様々な課題を発見し、柔軟な発想をもって問題解決に取り組むことができる学生を育成するため、アントレプレナーシップ教育の充実を図ってまいります。

ものづくり工房（現 磐陽テックガレージ）開設記念 プレオープンコンテスト受賞者

【最優秀賞】
機械システム工学科３年　遠藤　健太（作品名：開けコプター / ワンタッチMD固定）

【技術賞】
機械システム工学科５年　東　　聡（作品名：VR旋盤シミュレータ）

【アイデア賞】
機械システム工学科４年　塚田愛由希（作品名：？？？）

【優秀賞】

プロダクト部門
機械システム工学科５年　四家　綾真（作品名：ROBO-ONE Light級二足歩行型ロボット）

デザイン部門
都市システム工学科５年　鎌田　晃慶
（作品名：イラストレーションと３DCGを用いたグラフィックデザイン表現）

コンテンツ部門
電気電子システム工学科５年　関根　彩夏、早坂　拓也、芳賀　大樹　※グループ応募。
（作品名：学内のリニューアルされた場所の紹介動画作成）

フリー部門（２件）
機械システム工学科３年　庄野　　湊（作品名：体験入部などで配るロボットのプラモデル）
機械システム工学科３年　本郷凌太郎
（作品名：リンクを使った開閉式アーム・指のような動きができるリンク）



プレゼンテーションの様子



デモンストレーション、質疑の様子



磐陽祭2023アーチ

磐陽祭2023を開催

11月４日（土）に「磐陽祭2023」を開催しました。

ここ数年は、台風の影響や新型コロナウイルスの感染拡大により、開催中止やオンライン開催、来場者を制限するなどしておりましたが、今年は５年ぶりの通常開催となりました。

今年の磐陽祭のテーマは「革命」でした。「革命」とは、大きな変革を指す言葉であり、従来の枠組みや慣習にとらわれず、新たな可能性を模索することです。以前のようには戻れなくても、このような時代だからこそ、創造性や革新性をもって活力のある未来を築いていけるという意味が込められました。

このテーマのもと、久しぶりの通常開催で慣れないことも多い中、磐陽祭実行委員会の学生が中心となり、数ヶ月前から準備を行ってきました。来場者の皆さまに楽しんでいただけるよう、各学科等ではオープンキャンパスコーナー、部活動・学生団体等では、昨年まで制限していた飲食物を提供する模擬店も復活するなど、様々な催し物が出展されました。

約2,400名の方が来場し、大盛況のうちに幕を閉じることができました。



模擬店出展の様子


一般来場者で賑わう校内


将棋部員との対局（将棋部）


磐陽祭ラジオ放送（無線通信部）


ロボットを使ったミニゲーム（ロボット技術研究会）


お茶会（茶華道部）


作品展示（美術部）

退職者挨拶



一般教科　髙野　克宏

平成元年（1989年）４月１日の着任以来、35年にわたって福島高専一般教科にお世話になってきました。

もともとインド仏教思想を専攻していた私が高専の国語教員として採用されたのは、まったくの偶然でした。「文学」を専門としない者が国語を担当するということで、かなり風変わりな授業となり、学生の皆さんは戸惑われたのではないかと思います。ただ私としては、所謂「普通の国語の先生」とは違った切り口から授業ができればと考え、いろいろと工夫してきたつもりではありますが、どうだったでしょうか？

改めて思い返すと、高専の教員になれたことは私にとっては非常に幸運でした。真面目かつ個性あふれる学生さんたちとの触れ合いは、いつも刺激的で、毎日が楽しみ（驚き？）の連続でした。授業、学級担任、剣道部顧問などなど、すべてが良い思い出です。

定年退職まで無事に勤めることができたことは、ひとえに学生の皆さん、教職員の皆さんのお陰と、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。



学生課長　髙橋　利枝

まさか４月に異動になるとは思いも寄らず、JALの航空券を手配しており…。今、シリコンバレー Study Tour 2024学生引率のオフタイムにこの原稿を書いています。外国にて、学生達が様々なツールを駆使し、普段の自分の殻を破ってイノベーションに挑む姿、活き活きとした眼差しがとても眩しく、また私のことを「カチョウ！」と慕ってくれて、学校で仕事をするということの楽しさを堪能しています。

さて、令和４年４月に岐阜から福島高専に着任し早２年。南会津や大阪まで学生募集に出掛けたり、60周年記念事業でコモンズ整備をしたりなど、学生・教職員の皆様と一緒に活動出来たのが特に嬉しかったと今思っています。他にも、トイレ・更衣室問題をちょっとだけ（?）仕掛けてみました。このことも含めて、今後新たなイノベーション（変革）へと繋げて欲しいと願っています。

２年という短い期間でしたが、他から来た者を受け入れ、一緒になって活動してくれる福島の温かい雰囲気がとても居心地よく、感謝しております。

これからも隣の茨城高専より応援して、いいえ、共に切磋琢磨していきましょう〜！

退職・転出者等一覧

《定年退職》

一般教科　教授　髙野　克宏

《転　　出》

学生課　課長　髙橋　利枝（茨城高専へ）

《再雇用期間満了退職》

嘱託教授　大槻　正伸
嘱託教授　宮澤　泰彦
嘱託教授　鈴木　三男
嘱託准教授　一色　誠太

高等学校等就学支援金

高等学校等就学支援金制度とは、家庭の状況にかかわらず、全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込める社会をつくるため、国の費用により、生徒の授業料に充てる高等学校等就学支援金を支給し、家庭の教育費負担を軽減するものです。

国立高等専門学校（第１学年～第３学年）も就学支援金制度の対象となっており、定められた所得判定基準（年収910万円程度）未満の世帯に対して、月額9,900円（年額118,800円）の就学支援金が支給されます。

支給期間は原則として通算36月となっております。また、保護者の所得に応じて就学支援金の加算、または未支給となることがあります。

なお、就学支援金は保護者全員の所得判定基準で判定します。「市町村民税の課税標準額×６％－市町村民税の調整控除の額」を基準に支給されるため、保護者等の失職、倒産等家計急変したときにすぐ反映されない場合があります。その場合、就学支援金制度とは別に、「家計急変支援制度」の対象となる場合がありますので、詳しくは学生課学生支援係にお問い合わせ下さい。

授業料免除制度

授業料の免除は、経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合に、前期・後期ごとに本人の申請（前期の授業料の免除申請の際に併せて、後期の申請も可能です。）に基づき選考のうえ、授業料の全額又は半額を免除する制度です。選考は免除選考基準により、家計・学力・人物について学生委員会で審議します。

経済的理由による授業料免除の対象となるのは、４年生・５年生・専攻科生となります。令和２年４月より、高等教育の修学支援制度へと移行しており、経済的な理由での授業料免除を希望する場合には、まずはこちらの制度への申請をすることとなります。

３年生以下につきましては、左記の高等学校等就学支援金制度が適用されるため、経済的理由による授業料免除の対象とはなりません。（ただし、授業料の各期の納付期限前６月以内の学資負担者死亡等、特別な事情が発生した場合は、例外的に授業料免除の対象となることがあります。）

経済的理由による授業料免除は、高等教育の修学支援制度の日本学生支援機構給付奨学金に申込んだ上で、給付奨学金の認定を受けた学生が対象となります。前期分は３月下旬～４月頃、後期分は９月頃が申請期間となっておりますので、掲示・メール等のお知らせを確認するようにしてください。

奨学制度・授業料免除制度・高等学校等就学支援金についてのお問い合わせは　学生課学生支援係まで　TEL　０２４６－４６－０８７０

行　事　予　定（前　期）

※新型コロナウイルス感染防止対策のため変更となる場合があります。

4月
- ３日（水）　入学式（本科・専攻科・編入学生）
- ４日（木）　始業式
- 新入生オリエンテーション
- 専攻科始業式
- ５日（金）　前期授業開始
- 特研オリエンテーション（専１）
- 10日（水）　全校・校外清掃日
- 11日（木）　定期健康診断（休講日）
- 13日（土）　インターンシップマッチング（４年・専１）
- 27日（土）　公開授業・寮生保護者総会・
- 寮生保護者個別面談会・開校記念日

5月
- ８日（水）～10日（金）
- 専攻科推薦入試願書受付
- 11日（土）～12日（日）
- オープンキャンパス・春
- 17日（金）　専攻科推薦入試
- 28日（火）～31日（金）
- 前期中間試験期間

6月
- ３日（月）～７日（金）
- 前期中間試験期間
- ５日（水）～７日（金）
- 専攻科学力入試願書受付
- 15日（土）　専攻科学力入試
- 24日（月）～28日（金）
- 学級懇談会（オンライン）

7月
- ３日（水）　TOEIC-IP（３年）
- ５日（金）　学生臨時休業（開校記念日の休日振替）
- ６日（土）～７日（日）
- 東北地区高専体育大会
- ８日（月）　学生臨時休業（公開授業日の休日振替）
- 10日（水）　インターンシップ事前指導会（４年）
- 13日（土）～14日（日）
- オープンキャンパス・夏
- 25日（木）～31日（水）
- 前期期末試験期間
- 31日（水）　編入学願書受付

8月
- １日（木）～２日（金）
- 編入学願書受付
- ７日（水）　集会・情報モラル講座（全学年）・
- 教室整備
- ８日（木）　補講日
- ９日（金）　閉寮
- ９日（金）～９月23日（月）
- 夏季休業
- 11日（日）～17日（土）
- 学校閉鎖
- 25日（日）　開寮
- 28日（水）～30日（金）
- 全国高等専門学校将棋大会

9月
- ３日（火）　編入学試験
- ６日（金）　補講日
- ９日（月）～11日（水）
- 再試験期間
- 21日（土）～22日（日）
- オープンキャンパス・秋
- 24日（火）　集会・専攻科集会
- 24日（火）～25日（水）
- 校内体育大会
- 26日（木）～27日（金）
- 学科行事日（４年）
- 26日（木）～30日（月）
- CBT試験

編集後記

本号は2023年度後半の記事を掲載しております。学会での受賞報告、クラブ活動での活躍、各種コンテストでの入賞等、学生の皆様の活躍をお伝えすることができ嬉しく思います。学生の皆様が充実した学生生活を過ごせるよう整備された学校施設（ものづくり工房（現 磐陽テックガレージ）、イノベーションコモンズ等）についてもご覧いただけると幸いです。より皆様に親しんでいただける学校だよりをお届けしたいと考えておりますので、ご意見等ございましたら総務・広報係までご連絡ください。

VEGETABLE OIL INK